

13...Nf6 ?! (図2)

図2 白番



働いていないピースを活用する自然な手ですが、13...dxc5 14.bxc5 h6! 15. Bxe7 Qxe7 とビショップを消しておく方が良かったようです。以下 16.c6 bxc6 17.dxc6 とクイーンサイドのピースを押さえ込みに行く予定でしたが、局面が開けば黒にも強力なダブルビショップを使うチャンスが出てきます。

14. Nd2! Nxe4 15. Ndx e4 fxe4 16. Nxe4

この展開は白の攻め駒であるナイトがセンターに居座ることができ、白にとって不満がありません。

16...Bf5 17. Bf3 h6 18. Be3 g5 (図3)

図3 白番



黒はキングサイドのポーンを伸ばしてプレッシャーをかけてきます。このように自分のキングの前から攻めることで、切るか切られるかの勝負にするのがこの定跡の醍醐味です。

白は次の 19...g4 に対処する必要がありますが、19. h3 Ng6 の展開は、次の Nh4 を気にしなければならず、自信が持てませんでした。なるべく相手にわかりやすい手を与えないよう、10分ほど考えて次の手をひねり出しま

す。

19. Ng3 !?

g4 からのピースダウンをさげつつ相手のダブルビショップを消しにかかります。19...e4 が気になるのですが、強く 20.Bxe4! が好手で、以下 20...Bxe4 21. Nxe4 Bxa1? 22. Qxa1+ Kh7 には、23.Bxg5! で黒の陣地は完全に崩壊します。

19... Bg6 20. Rc1 Qd7 21. Qe2 Nf5 ?!

(図4)

図4 白番



そこで黒はビショップを逃げましたがその隙にこちら Rc1~Qe2 と攻撃態勢を整えます。スペースの狭い黒はピースを交換するべく Nf5 と跳ねだしてきましたが、この手に対してはしっかりと読みを入れて対処します。

22. Bg4! Nxg3 23. hxg3

Bg4 と出て黒のクイーンにプレッシャーをかけます。遠く c8 にも利いているため、将来 c ファイルが開いたときの Rc8 を牽制しているのもポイントです。

そしてもう一つ、別の狙いがあります。

23... Bf5 ?

慣れないオープニングで小考を重ねてきた相手は、この勝負所で貴重な 5 分を費やし、ビショップをぶつけてきました。しかし、黒の駒の中で最も働いている白マスビショップを交換してしまったため、黒陣の白マスの弱さが浮き彫りになりました。

そして、残った黒マスビショップは自分のポーンに囲まれており、十分に働くことができません。

24. Bxf5 Rxf5? (図5)

このゲームで唯一、相手がノータイムで指したこの手が敗着になりました。ですが、24...Qxf5 25.Rfd1 でも白の優勢は揺るがないでしょう。

図5 白番



黒に残されたピースは働きの悪いピースばかりであり、白の攻めに対抗する受けも、怖い反撃の手段もありません。

25. c6 !

勝ちを決定づける好手です。たった一手で a6 と c7 の両方が弱点となり、受けが難しくなります。

このあたりで周りを見渡すと、思ったほど景色がよくありません。小島は問題なく勝ちそうでしたが、隣の唐堂は格上相手に苦戦中、そして南條のボードに目をやると、キングサイドが完全に崩壊し、キングが逃げ出している真っ最中でした！

優勢は得たものの、チームのためにはこの試合を落とすわけにはいかないと、気を引き締めます。

25... bxc6 26. Rxc6 Rb8 27. Qc4

27.Qxa6 も可能ですが、万が一が起こらないよう、反撃のチャンスを与えずゆっくり局面を改善していきます。

27... Rf7 28. Rb1 Qf5 29. Rc1 e4 30. Rxa6 h5 31. Rc6 h4 (図6)

図6 白番



小刻みに時間を使って、ここが最後の山場です。

もちろん、よほどひどい手を指さなければ勝てる局面ですが、このような場面でもきちんと読み切って勝つという練習を、オリンピック前に繰り返してきています。

日本のトッププレーヤーのレベルでは簡単な局面ですが、この場面はその成果を見せるところだと思っていました。

32. gxh4 gxh4 33. Rxc7! Bb2

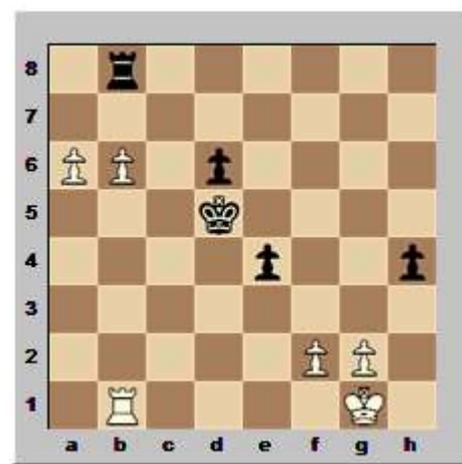
33... h3 34.Rxf7 Qxf7 は 35.Qxe4 であり、33... Rff8 34.Bd4 Be5 は、35.Bxe5 Qxe5 36.a6! h3 37.a7 Ra8 38. Qc3! であり、他にも変化はあるものの、黒の攻めは届きません。

この後は特に難しいところもなく、無事このオリンピック初勝利です。

34. Rxf7 Qxf7 35. Bd4+ Bxd4 36. Qxd4+ Qg7 37. Qxg7+ Kxg7 38. Rb1 Kf6 39. b5 Ke5 40. b6 Kxd5 41. a6 1-0 (図7)

結局このラウンドは、唐堂が負けたものの小島と自分が完勝し、先に2ポイントを取りました。チームの勝ちにはあと0.5ポイントが必要でしたが、最後に残った南條は途中駒損し、かなり苦しい展開だったと思います。しかし、南條はそこから底力を発揮し、少しずつ局面を難しくしていき、最後はポーンダウンながら強力なカウンターを入れることで、最後の0.5ポイントをもぎ取りました。

図7 黒番 (黒リザイン)



スリランカ戦は2.5-1.5で勝利。大勝ではなかったものの、まずまずの出だしでした。

ちなみにスリランカチームとは同じホテルで、この試合の後にも何度か食堂で軽く話をしたりしたのでした。普段は話す機会のない国の人も交流できるのが、海外大

